

体外受精セミナーQ&A（2022年9月開催）

Q1. チョコレート嚢胞があっても採卵できますか。

採卵を実施することはできます。しかし、一般的に採卵の妨げになりますので、採卵数の減少になる可能性はあります。嚢腫の程度にもよりますが全く採れないわけではありません。

Q2. 低刺激の場合、採れる卵子の数はかなり少ないですか。

少なくなります。ただ、メリットもあり、刺激が少ない分、採卵を毎月繰り返すことができます。（高刺激の場合は、1周期お休みしていただきます。）基本的には患者様とご相談のうえ、適切だと思われる刺激方法をご案内しています。

Q3. 高刺激の場合、1回お休みを挟まないといけない以外のリスクを教えてください。

特別に高刺激が高リスクというわけではありませんが、卵巣刺激症候群を発症しやすいと言われています。その他心配なことは、診察時にご相談ください。

Q4. 採卵前の卵巣刺激注射について、「保険診療の場合、自己注射か院内注射のどちらかに統一する必要ある」とのことですが、院内注射を選択する場合は、GnRH注射は自己ではできず点鼻薬のみとなりますか。また、GnRH注射と点鼻薬の効果の違いはありますか。

そのとおりです。

効果は基本的には同じですが、注射の方が確実に体の中に入るため、注射の方がお勧めです。

Q5. 注射は毎日決まった時間にする必要がありますか。

特に時間は決まっていません。ただ、初めて注射する方は、ご質問や困ったことがあった場合にご連絡いただけるよう、診察時間内に実施していただくようお願いしています。

お気軽に当クリニックへご連絡ください。

Q6. 注射は痛いですか？体調が悪くなることはありますか。

パートナーである旦那さんができることはありますか。

痛みの感じ方は個人差があります。副作用については、基本的にはあまり体調に影響がない注射を使用しています。注射との因果関係は不明ですが、人によっては頭痛などがある場合もあります。

体外受精セミナーQ&A（2022年9月開催）

注射は指導を受けていないとできないので、指導を受けていないパートナーの方に注射をしてもらうことはできません。

尚、不妊治療全体でパートナーの方にご協力いただけることとしては、採卵や移植は女性の身体の負担が大きくなりますので、家事や身の回りのことなどでサポートいただけると幸いです。また、治療の内容や方針については、お二人でよくご相談されることが心のケアにもつながると思います。

Q7. 凍結精子の運動率は悪いですか。

まず精子を凍結すると、融解したあとの運動率が元の精液の10～50%くらいまで低下します。元の精液の運動精子が非常に多い場合は、体外受精をご選択いただくことも可能ですが、顕微授精になることがほとんどです。

次に、保険診療の場合は、凍結精子に使用期限があります。詳しくは精子の凍結をご希望の方にご説明しておりますので、お問合せください。また、受付にお申し出いただければご案内資料もご用意しております。

Q8. 1回の採卵で体外受精と顕微授精の両方を行う場合、卵の選び方はどうしていますか。

特に選んでいません。無作為で振り分けています。

Q9. 受精卵はただ注射器やカテーテル等で子宮内に注入するだけでしょうか。着床しやすくする処置はありますか。その後横になっている等安静にしているほうが着床しやすいですか。

子宮内に注入するだけです。適切な位置にカテーテルを挿入し、胚を置きます。

着床しやすくする処置については、保険診療では「アシステッドハッチング」と「高ヒアルロン酸含有培養液の使用」という治療法を選択することができます。また、自費診療では他の治療法もお選びいただけます。詳しくは診察時にご相談ください。

また、移植後に気をつけることですが、移植後はしばらくリカバリールームで安静にさせていただいてからお帰りいただいています。

体外受精セミナーQ&A（2022年9月開催）

Q10. 凍結せずに新鮮胚移植を行い、それがうまくいかなかったら、翌周期以降に凍結したものを戻すことは可能ですか。

採卵周期で新鮮胚移植を行い、残りの胚を凍結保存しておけば、次の機会に凍結融解胚移植を行うことができます。ただ、新鮮胚移植を想定した卵巣刺激を行う必要があるため、ご希望の場合は必ず誘発開始前に医師にご相談ください。

また、凍結融解胚移植のメリットとしては、ホルモン値・子宮内膜といった子宮の環境を整えることができ、最適な着床のタイミングに合わせる事が可能です。そのため、一旦凍結されることをお勧めしています。

Q11. 移植日は午前のみなど時間指定がありますか。午後も実施していますか。

移植はすべて13時～15時頃に行っています。時間はこちらで指定させていただきます。

Q12. 体外受精を進めていて、途中で自身の予定の関係で人工授精に切り替えることは可能ですか。

かなり難しいです。採卵予定個数や使用している薬にもよりますが、あまりお勧めはしていません。ご都合が悪くなった場合、その周期は中止することをお勧めしています。

Q13. 自然周期とホルモン補充療法では、どれくらい費用に差がありますか。

採卵術や培養・凍結、胚移植などの施術費用については、自然周期とホルモン補充療法との違いはありません。ただ、ホルモン補充の場合はお薬が必要になりますので、その分、費用がかさみます。具体的な費用は、使用する薬剤によって異なりますので、受付までお尋ねください。

Q14. 貴院では、1日に何人くらいの方を採卵されているのですか？

月150件前後の採卵を行っています。日によって、件数のばらつきがあります。

Q15. 採卵時の医師の希望は出せますか。

お受けできません。曜日によって担当医師が決まっています。

Q16. 採卵するのは医師で、採卵後に培養するのは培養士、そして移植をするのは医師でしょうか。

そのとおりです。

以上